

大腸ステント Palliative therapy についてのアンケート報告

がん・感染症センター 都立駒込病院
内視鏡科¹⁾, 消化器内科²⁾

田畑 拓久¹⁾, 小泉 浩一²⁾

アンケート協力施設一覧(50音順)

- 厚木市立病院
- 岩手県立胆沢病院
- がん・感染症センター都立駒込病院
- 九州医療センター
- 京都第二赤十字病院
- 呉医療センター・中国がんセンター
- 国立病院機構 相模原病院
- 国立病院機構 横浜医療センター
- 埼玉医大総合医療センター
- 高野病院
- 東邦大学医療センター大橋病院
- 日本医科大学千葉北総病院
- 福島県立医科大学会津医療センター
- 守口敬任会病院

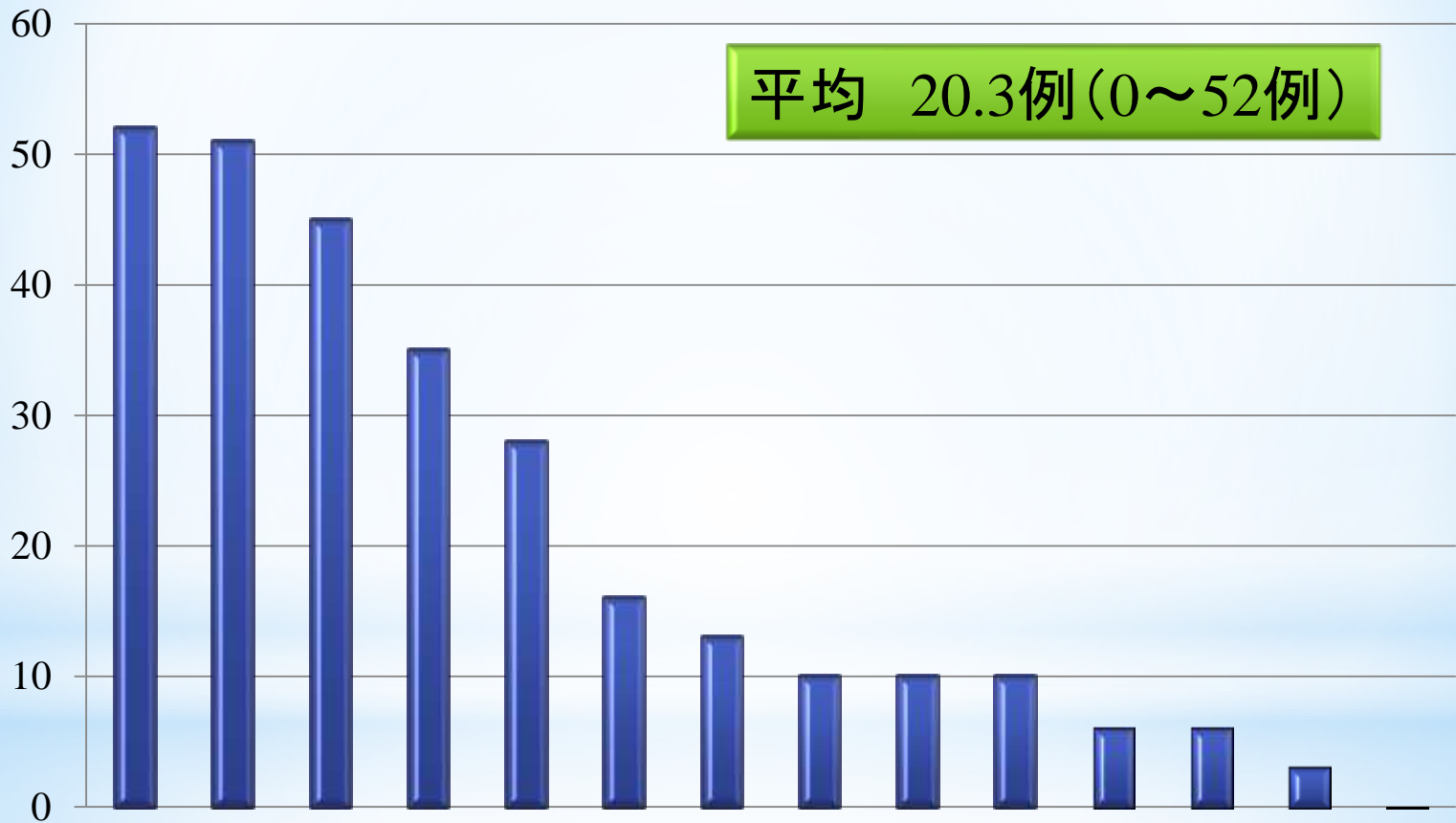
計14施設 285症例

調査項目

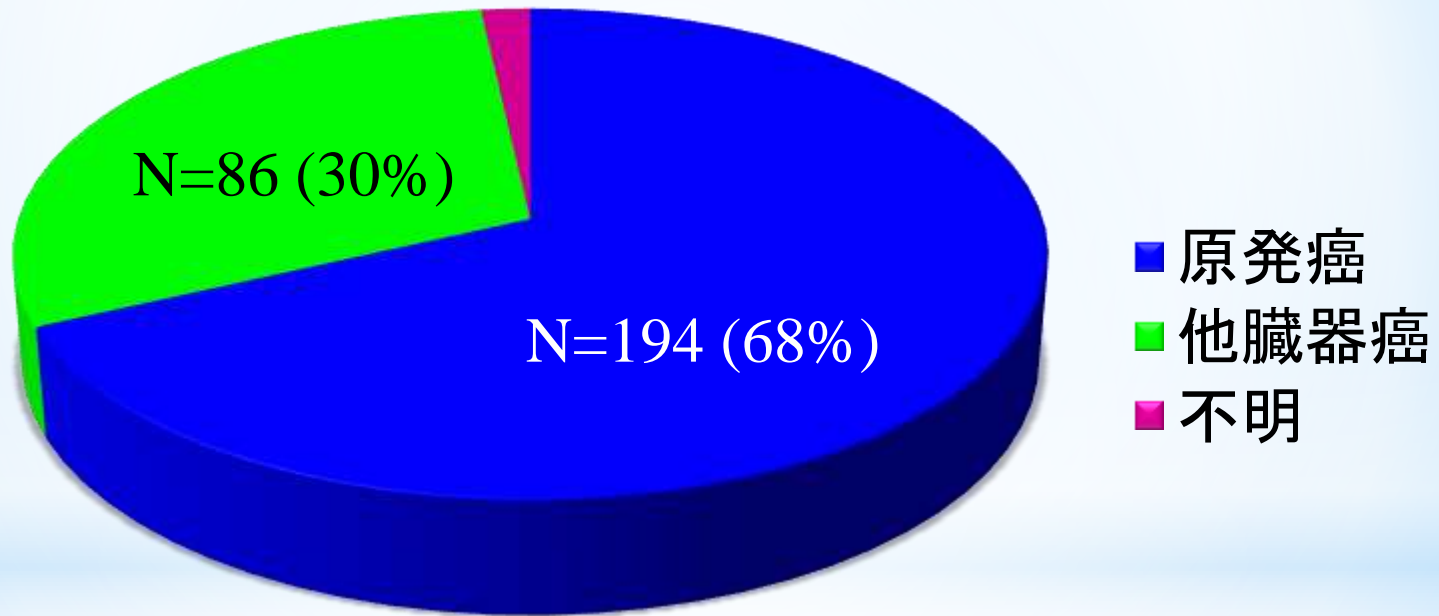
- Q1. Palliative caseの総症例数
- Q2. 閉塞原因(原発癌?他臓器癌転移?)
- Q3. 留置後の化学療法施行例
- Q4. 短期および長期の偶発症
 - 再閉塞 (ingrowth/overgrowth)
 - 穿孔
 - 逸脱 (migration)
- Q5. 偶発症への対応
- Q6. 最長狭窄解除継続期間

Q1. 総症例数

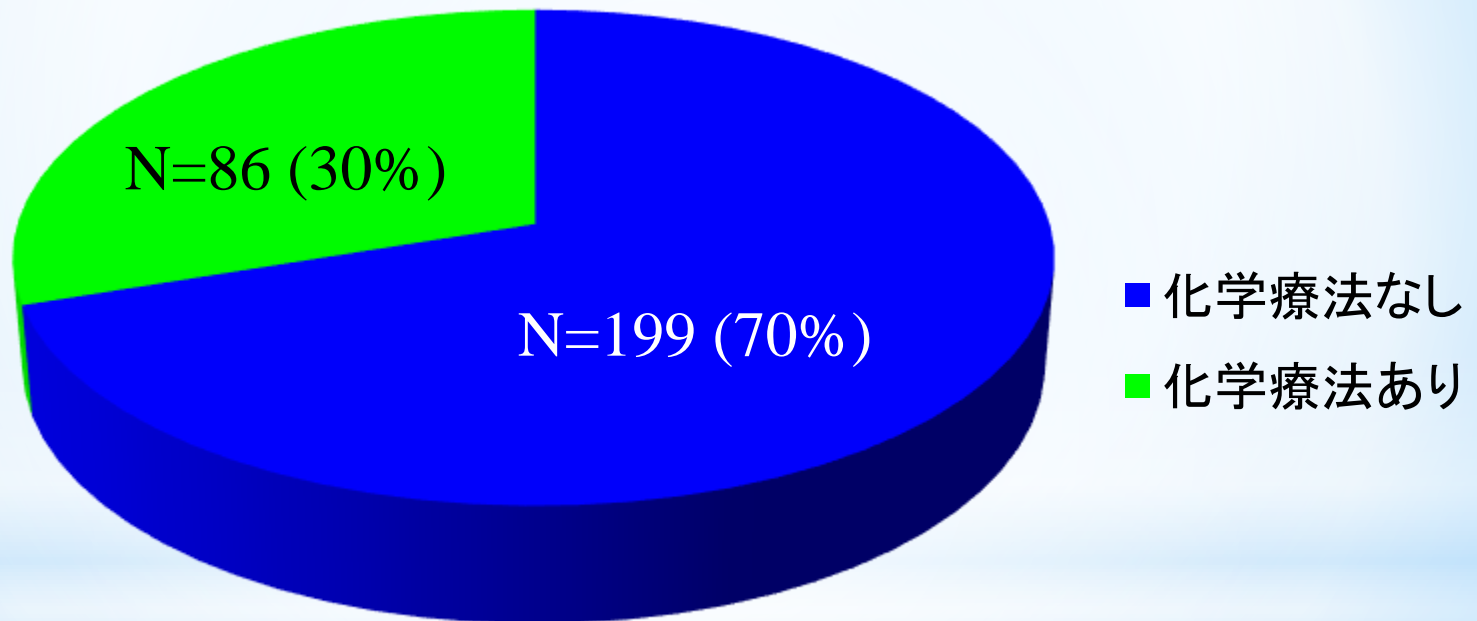
例



Q2. 閉塞原因



Q3.留置後の化学療法



Q4. 偶発症

	Total (N=285)	原発 (N=194)	他臓器癌 (N=86)
再閉塞	38 (13%)	26 (13%)	12 (14%)
Ingrowth	24 (8%)	16 (8%)	8 (9%)
Overgrowth	8 (3%)	5 (3%)	3 (3%)
Stool impaction	6 (2%)	5 (3%)	1 (1%)
穿孔	14 (5%)	—	—
逸脱	19 (7%)	—	—
その他	2 (1%)	—	—
Total	73 (26%)		

Q5. 偶発症への対処

	Total (N=285)
再閉塞	38 (13%)
Ingrowth	24 (8%)
Overgrowth	8 (3%)
Stool impaction	6 (2%)
穿孔	14 (5%)
逸脱	19 (7%)
その他	2 (1%)
Total	73 (26%)

Stent in stent 17例

APC 4例

ヒートプローブ 1例

人工肛門造設 2例

Q5. 偶発症への対処

	Total (N=285)
再閉塞	38 (13%)
Ingrowth	24 (8%)
Overgrowth	8 (3%)
Stool impaction	6 (2%)
穿孔	14 (5%)
逸脱	19 (7%)
その他	2 (1%)
Total	73 (26%)

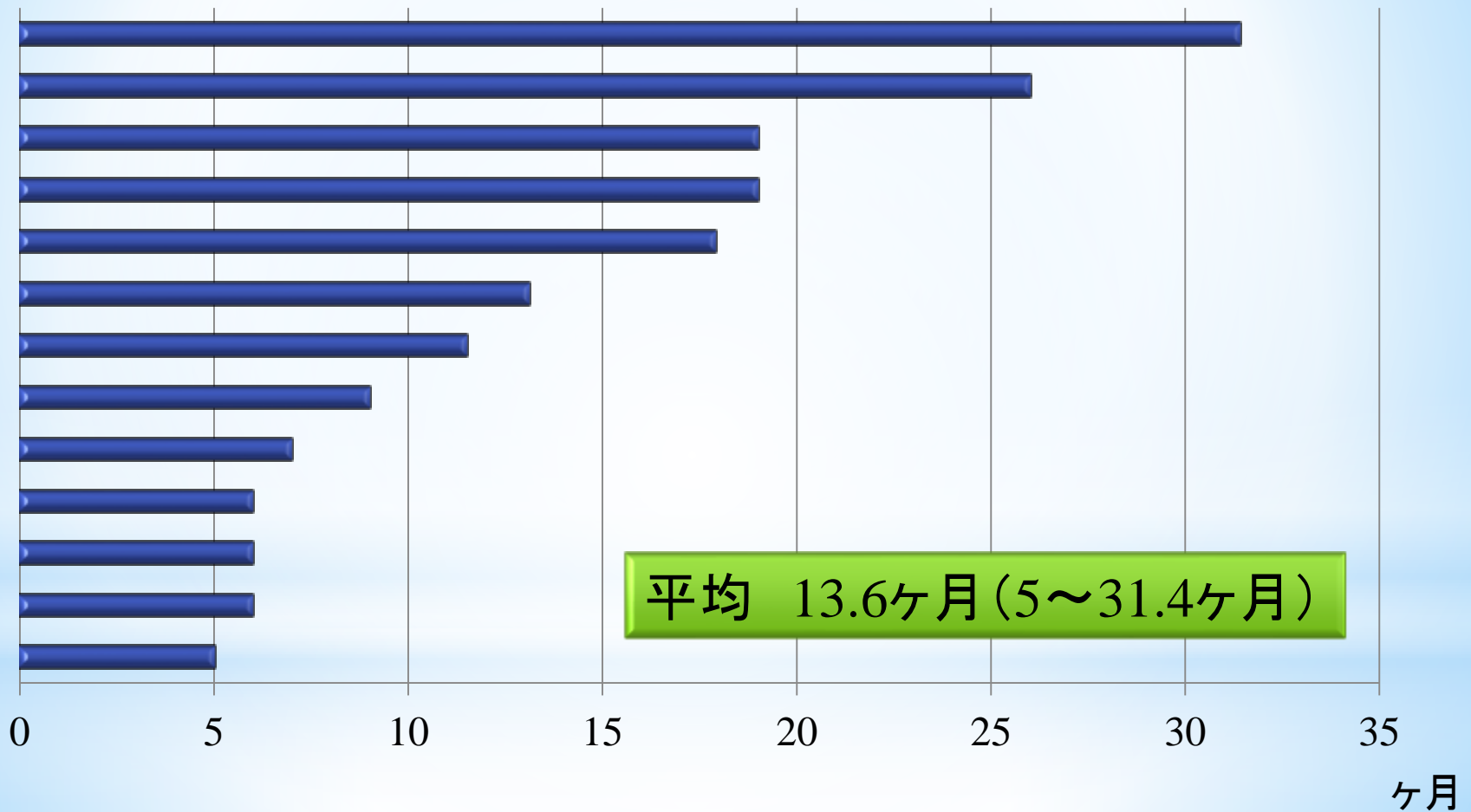
Stent in stent 6例
人工肛門造設 1例
無治療 1例

Q5. 偶発症への対処

	Total (N=285)
再閉塞	38 (13%)
Ingrowth	24 (8%)
Overgrowth	8 (3%)
Stool impaction	6 (2%)
穿孔	14 (5%)
逸脱	19 (7%)
その他	2 (1%)
Total	73 (26%)

Cleaning 5例
人工肛門造設 1例

Q6. 最長狭窄解除継続期間



Summary

- ✓ 原発性大腸癌に対する留置(68%)が主体で、他臓器癌に対する留置(30%)は少ない。
- ✓ スtent留置後の化学療法施行例は全体の30%にとどまる。今後はstent留置下での化学療法の安全性について更なる検討が必要と考えられる。
- ✓ Palliative therapyにおける偶発症として、再閉塞(13%), 逸脱(7%), 穿孔(5%)があり、全体的に長期留置が多いため偶発症の発生はBTSの短期成績と比べて高率である。

Summary

- ✓ 逸脱は直腸, S状結腸の順に多く、化学療法の治療効果による腫瘍縮小効果や宿便による影響などが考えられる。
- ✓ 最長狭窄解除継続期間は平均13.6ヶ月であり、偶発症に対する適切なマネジメントや化学療法導入によって長期開存が期待できる症例もある。